

駅から ぶらり旅

文＝伊藤哲也
写真＝亀井川 英樹



かんの温泉の近くで見かけた雄のエゾシカには、野生の風格があった。最近は数が減ったという。

冬の青空はいつにもまして清らかだった。帯広駅からレンタカーで鹿追町へ向かっていった。鹿追市街を抜け、道道一〇八八号を山奥へと北上する※。たどり着いた秘湯は、一九二二年（明治四四）に開湯した「然別峡

道路は寸断、橋も流された状況で、勝海さんはスタッフとともにマウンテンバイクと徒歩で宿に来て、建物や浴槽の修理に当たったという。想像もできない苦労があったはずだが、「再開後、昔のお客が来てくれたことが何よりもうれしかったですね」と、穏やかな笑顔である。

◎第二九回 帯広駅から 鹿追町へ



「いずれは森の中を歩いて入りに行く野湯も作りたいですね」と、勝海社長（レストランにて）。

かんの温泉」。二〇〇八年（平成二〇）に廃業となったのを買い取り、再興したのが、現社長の勝海敏正さんである。一〇年ぶりにお会いし、「その後、お変わりありませんか」と聞くと、「二〇一六年の台風二〇号で、大被害に遭い、一〇カ月休業しました」と言う。

ここには二三の泉源、二一の湯船（すべてに名前が付いている）があり、すべて自然湧出、源泉かけ流しだ。さつそく宿泊棟「こもれび荘」にある「イコロ・ボッカの湯」に体を沈めた。足元から湧出している透명한湯はややぬるめだったが、



（※）道中、カーナビが「冬季閉鎖中あり」などとアナウンスする場合があるが、基本的に冬期間は宿まで除雪が行われ、閉鎖ゲートもない。



（左）窓が大きく明るい「波切の湯」。広々とした岩風呂は、くつろいだ気分で長湯ができる。（上）かんの温泉の客室（ツイン）。部屋はすべて洋室でシングル、ツイン、トリプル、4人部屋がある。全14室。

●然別峡 かんの温泉／河東郡鹿追町字然別国有林145林班 ☎050・1721・9098（自動応答による受付）。※予約は公式HPからでもできる。チェックイン15:00、チェックアウト10:00。1泊2食付き2名1室12,250円～。宿泊者は夜通し入浴できる。レストランは予約制で宿泊者のみ。



(上) 温泉棟の入口から山のいでの湯の風情が漂う。背後の建物が宿泊棟の「こもれび荘」。日帰り入浴は12:00～17:00、大人650円。火曜・水曜休み(4月下旬～11月下旬は火曜休)。(右)「イコロ・ボッカの湯」は半露天風呂。冬はビニールで開口部をふさいでいる。



(左) 海鮮鍋は具材からいい出汁が出て、いいおかずになった。ご飯はセルフサービスでおかわり自由。(右) この日の天ぷらは鶏肉、エビ、サツマイモ、カボチャ。さっくり、熱々だった。



ほどよいとろみがある。温泉棟にある「波切の湯」も素晴らしい。緑がかった濁り湯は肌触りが良く、艶がある。うつとりするような心地である。山峡の静けさの中で、湯の落ちる音にぼんやり耳を傾けていると、ふと人生は一炊の夢ではないかと思う。

夕食は造り、天ぷら、海鮮鍋など、旅館の定番メニュー

が並ぶ。地酒が三種類(国稀、福司、北の勝)あり、北の勝を飲みながら、懐かしさとともに味わった。

風呂は午後七時半頃に男女を入れ替えるので、食後、昼には入れなかった湯船につかった。泉源は違っても、泉質はすべてナトリウム・塩化物・炭酸水素塩泉なのが、各浴槽で肌触りや色合いがやはり違う。湯温も様々なので、お気に入りを見つけて体の芯まで温まり、深い眠りに就いた。

翌

朝、然別湖畔にある然別湖ネイチャーセンターを訪れた。ネイチャーガイドの松本宏樹さんの案内で、湖畔の原生林ヘスノーシューハイキングに出発である。歩き始めから五分ほどは上り坂であるが、そのあとは平たんな森になった。

「この平坦なところまで、かつての然別湖の水があつたんです」と、松本さん。然別湖は三〇万年前に始まった火山活動によって、川がせき止められて誕生した。その後、せき止めた土砂の一部が崩壊して水が流れ出し、今の水位になったらしい。この森はエゾマツ、トドマ

ツなどの針葉樹、ダケカンバ、ナナカマドなどの広葉樹が入り混じる針広混交林である。

松本さんが一本の木の前で立ち止まった。「このトドマツ、地面から幹の途中まで枝が枯れています。日当たりが悪いせいですが、エゾモモンガが葉を食べることも関係していそうです」(松本さん)。松本さんの観察によれば、エゾモモンガは下から上へと枝の葉を食べるらしい。理由は不明とのことだが、



森の入口近くにあるトドマツの倒木。アーチのようである。

エゾモモンガは今後のために、日当たりのいい上の方の葉を残しているのかもしれない。



(左) 森の中の小道を歩く。スノーシューを履いているので、積雪が多くなればより自由に木々の間を歩くことができる。



(上) トドマツの葉を食べるエゾモモンガ(リス科)。基本的に夜行性だが、冬は昼にも行動する(写真提供/松本宏樹)。

変化があり、動物や昆虫の数が減ってきているようだ。松

代していくのである。

他方、この森にも少しずつ

雪の上には動物たちの足跡も残っている。松本さんはエゾクロテンとネズミの足跡が交錯する場所で、「事件現場かな? ここでテンがネズミを見つけたのかもしれない」と教えてくれた。

本さん曰く「然別湖周辺に棲むナキウサギの数も減っているようです。温暖化の影響で、子どもを産む数が減った可能性があります」。近年の自然災害の一因として、温暖化が挙げられているのは周知の事実だろう。人間が自然に与え



クマゲラの食痕。幹に巣を作るムネアカオオアリを食べた痕のようだ。



エゾモモンガの写真を持つ松本さん。このエリアで20年のガイド歴があり、北海道知事認定アウトドアガイドだ。

◎結氷した湖上のイベント「しかりべつ湖コタン」

然別湖の氷上に露天風呂や足湯、アイスバーなどが出現する。スノーモービルやナイトウォッチング、アイスロッジの宿泊体験もできる。

☎0156・69・8181(然別湖ネイチャーセンター)。期間:2025年1月25日～3月16日、入場シーズンパス(小学生以上)500円。



氷上の足湯とアイスバー。然別湖の冬の名物である。(写真提供/しかりべつ湖コタン実行委員会)

る影響は、かつてないほど大きくなっている。森の中を歩く時間は、自然の歩みと痛みを知る時間でもあった。

①